

## コロナ終息への歩み、震災から10年を過ぎて表面化した課題への取り組み。

市民の皆様のご理解とご協力のもと、ワクチン接種も順調に進んでおり、10月1日に、まん延防止等重点措置が解除されました。解除後も感染者の数は減少傾向です。

この間、コロナ禍における新しい生活様式も身に付きました。飲食店のご利用にあたっては、感染対策に積極的にご協力いただくことをはじめ、マスクの着用、外出時には密を避ける換気や消毒の励行など、基本的な感染防止対策をはじめ今後も油断なく継続して行きたいと思っております。

郡市長2期目となって、最初の議会となる第3回定例会が10月12日に終了しました。今議会では、一般質問のほか、令和二年度の決算審議でも質問致しました。(内面に記載)今議会では、病院の連携・統合構想、宮城県立がんセンターと赤十字病院(太白区)、労災病院(太白区)と県立精神医療センター(名取市)の枠組み再編し、二つの拠点病院を新設する県の方針が明らかになり、仙台市に与える影響について、ガス局民営化が再度見送りになった経緯についてなど、コロナ対策以外の課題等についても議論が交わされました。

東日本大震災から10年半が経過しました。住まいの再建、復興など、ハード面での復興はゴールが見え始め、生業の再生も着実に進んでいます。

一方で、今もなお4万1000人が避難生活を余儀なくされ、コミュニティーの再構築や心のケアなど、きめ細かな支援が欠かせません。これからも多様化する被災者一人一人の悩みと被災地の課題解決へ、全力で取り組んでまいります。

先日、石巻市立震災遺構大川小学校を視察してまいりました。74名の児童と教員10名が津波で犠牲となりました。東日本大震災では、学校だけではなく、私たちの周り

にある様々な概念、価値観、システムを見直すことを突き付けられました。震災を風化させないこと、防災教育のあり方や次世代へ継承すること等、これからの10年が大事です。

「大衆とともに」の立党精神のもと、ネットワークの力をさらに強めながら、誰一人置き去りにすることなく、「心の復興」「人間の復興」を成し遂げるまで闘い続ける覚悟です。



仙台市議会議員  
佐々木まゆみ

# 防災・福祉政策に女性の視点を活かして さらなる充実を!



令和3年第3回定例会 一般質問 9月21日

令和3年度 決算特別委員会 9月27日

## 第3回定例会 一般質問

**【佐々木まゆみ議員】**市長としてコロナ発生以降これまでの対応をどう評価しているか。

**【郡市長】**今年3月からの感染拡大の際には、繁忙を極めていた保健所業務を全庁で対応し、応援体制の整備や業務を各局で分担し実施する体制を構築した。感染拡大に対しては早期に感染の予兆を捉えるための指標を設け県との連携の下、飲食店への時短要請などを行うとともに、全庁応援体制の拡充を図った。

今後も若い方々のワクチン接種の加速化を図りながら、感染の波を可能な限り低く抑えることができるよう、市民・事業者の皆様方と一丸となり対策に取り組んでいく。

**【佐々木まゆみ議員】**女性の視点を生かした防災対策について現状はどうか。

**【郡市長】**地域防災計画において、女性の視点を取り入れることを基本方針として、震災以降、せんだい男女共同参画財団等が推薦をする方を委員に加えるなど、女性委員の積極的な登用に取り組んできた。引き続き女性の登用に積極的に取り組み、多様な視点や感性を活かせる行政運営を推進していく。

**【佐々木まゆみ議員】**本市が発行している、自主防災活動の手引きや仙台防災ハザードマップに、プライバシー確保対策や十分な物資の備蓄品、避難所生活に女性の視点が十分反映されるよう盛り込んでどうか。

また、災害対応にあたる危機管理局により多くの女性職員を配置すべきと考えるがどうか。

**【危機管理局長】**自主防災組織向けの自主防災活動の手引きや仙台防災ハザードマップといった刊行物には、今後の改編時に合わせて女性の視点からの防災・減災のポイントなどを盛り込んでまいりたい。

こうした取り組みを推進していくためにも、防災・減災業務に携わる職員が女性の視点を十分に理解していることが肝要であり、危機管理局への女性職員の配置への

配慮のほか、男女共同参画担当部局や関係団体とのより密接な連携にも努めていく。

**【佐々木まゆみ議員】**福祉施策の更なる充実について。

市営住宅において、新型コロナウイルスの感染拡大による住民交流の停滞や、見守り活動の制限が問題となっている。本市の高齢者の見守り活動の現状に併せて民生委員・社会福祉協議会との関わりについて伺う。

**【健康福祉局長】**本市のコロナ禍における民生委員・社協の活動は、感染防止の留意点などを記載したリーフレットを配布するなどにより、情報の周知・啓発を図ってきた。

現状としては、訪問や外出先での声かけなどの回数が減少している一方、電話や照明の点灯確認などによる見守り活動は増加しており、工夫しながら取り組んで頂いている。

**【佐々木まゆみ議員】**浪江町では、町社協として離れた場所から常に見守り支援ができる「見守り電球」の活用を決定し、町内に住む見守りが必要な世帯を対象に今年の1月から実証実験を開始している。SIMカードが内蔵されたLED電球を、日常的に使用するトイレなどに取り付け、点灯情報が社協や別居する家族のパソコン、スマートフォン等に送られる仕組みとなっている。

そこで本市としても人的見守りとともに、地域包括支援センターの地域を選定し、実証評価を行うなど、最新のIoTを活用した見守り電球の導入を検討する時期に来ていると考えるがどうか。

**【健康福祉局長】**現在本市では、高齢者の見守りサービスとして、緊急通報を受けた際などに、警備会社が自宅に駆けつける24時間対応の緊急通報システムを導入している。

こうした機器の活用も含めた安否確認の手法について、本市としても引き続き研究するとともに、地域包括支援センター等へ情報提供を行うなど、必要な方がこうしたサービスを適切に利用できるよう支援していく。

**【佐々木まゆみ議員】障がい者交通費助成制度について。**  
本市ではバス利用時に使用する「ふれあい乗車証」、タクシー利用時の「福祉タクシー利用券」、さらに自動車利用時の「自家用自動車燃料費助成券」(以下、ガソリン券)があり、3種類からひとつを選択できるようになっている。しかし、ガソリン券に関しては、

(1)身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳の等級の要件に加え、(2)障がいのある方本人が所有する車を本人が運転すること、(3)障がいのある方本人が所有する車を同居する家族が運転すること、(4)同居の家族所有の車を同居の家族が運転する場合は、精神障がい者では手帳1級の方のみと限られている。また(5)施設入所者の方はガソリン券の対象とはなっていない。

施設に入所した場合、自力で外出することも少なくなり、タクシー券を申請しても未使用に繋がる。要件を緩和し、同居家族にガソリン券を使用してもらう方が、利便性に繋がると思うがどうか。

**【健康福祉局長】**ガソリン券については、主として障害のある方ご本人が所有する自家用車を自ら運転し、外出することで社会参加を促すことを目的としたものである。このような現在の枠組みを維持しながら、引き続き、障害のある方の社会参加促進に努めていく。

**【佐々木まゆみ議員】既存の市営住宅・住居内修繕の見直しについて。**

風呂設備交換は希望者募集件数を我が会派要望により、年間30戸から400戸に拡充され大変感謝している。老朽化した住宅の建て替えが進んでいるが、住戸内の整備も必要と考える。室内の段差、トイレやお風呂、押入れのカビもなかなか拭えない現状だ。

そこで、居住者の方々が生活する上で困っていること、必要なこと等を実態調査し、現状を把握・検証すべきと考えるがどうか。

**【都市整備局長】**住戸内の修繕については、入居者が退去された後に、状況を確認しながら必要な修繕を実施する「空室修繕」に加え、入居中の住戸の不具合については、24時間対応の総合案内センターで受付し、必要に応じて「緊急修繕」を行っている。

このほかにも、指定管理者が年一回全団地を訪問し、各町内会等から住戸の現状についてご意見やご要望等実態を伺い、随時必要な対応をしている。

一方、今後の対応としては、長期間入居されている世帯

で、これまで修繕の機会がなかった住戸に対し、床や畳、劣化した流し台、洗面台について、良好な住環境の確保のため、計画的な修繕に努めてまいりたい。

## 決算特別委員会

**【佐々木まゆみ議員】**「わが家と地域の防災チェック表」を更に活用いただくため、仙台防災ハザードマップ等に掲載すべきと思うがどうか。

**【減災推進課長】**「わが家と地域の防災チェック表」は市のホームページや「仙台防災ナビ」で提供しており、全31問を確認することができるセルフチェック方式のシートとなっている。日頃の備えや家族における災害初動時の取り決め



事項を、より多くの方々に活用いただくことは非常に重要なことであると考えます。

ご指摘のあった、仙台防災ハザードマップ等、危機管理局において発行している防災啓発冊子への掲載も含め、より多くの方にご活用いただける手法を検討し、一層の普及を図っていく。

**【佐々木まゆみ議員】**ハザードマップの配布数を以前のよ

**【危機管理局長】**ハザードマップ等の防災情報については、インターネット等を使って情報を入手するというのが主流になりつつある一方で、インターネットを利用できない方もおられることや、直ぐに開くことのできる冊子の便利さという点もあるものと認識している。

今後とも市民の皆さまが適切な避難行動を取っていただくために必要な情報をいち早く入手できるような仕組みについて、検討してまいりたい。

## その他

「学校図書室へのエアコン整備」「子宮頸がんワクチンの正しい情報提供」「市営住宅のインターホン全戸設置」「介護人材不足への対応」について質問した。



コロナ禍対策 市長へ要望



街頭よりご挨拶

**11回のコロナ要望に感謝**

公明党には、本市政の運営へ、多大なるご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。とりわけ党仙台市議団からは、新型コロナウイルス対策で緊急要望を11回にわたり頂戴しました。その時宜を得た内容を参考に、感染症対策に取り組んでおります。具体的には、仙台市、医師会などが協力し行つ

ているワクチンの集団接種において、休日や夜間対応の会場を設け、多くの市民に利用され接種を加速することができています。

さらに、庄字賢一県代表の協力により市庁舎内に民間企業の「PCR検査センター」を開業。誰もが手軽で安価に検査を受けられ、利用者の安心につながっています。

公明党が地方議会、さらには国政の舞台で現場主義を貫き、「二人の声」から政策を実現していくことを望んでいます。

仙台市長  
郡 和子 氏

郡市長のコメント(公明新聞に記載)



女性の衛生用品支援

8月17日から各区役所・総合支所、図書館、子育て支援施設「のびすく」で配布。エル・パーク仙台、エル・ソーラ仙台では、各女子トイレに配置しており、自由に持ち帰ることができます。

**学校防災体制の強化誓う**

震災伝承

3・11の津波で児童74人と教職員10人が犠牲となった宮城県石巻市の旧大川小学校。公明党宮城県本部(庄字賢一委員長)はこのほど、「大川伝承の会」共同代表の佐藤敏郎さんの案内で、被災校舎を見て回り、学校防災の課題を聴いた。

佐藤さんは当時、6年生だった次女みずほさんを失った。「学校管理下で起こった事実をわが事とし、防災に生かしてほしい。防災は希望で

あり、未来の命を守るためである」と強調した。

佐藤さんは「風化を防ぐためには、震災の教訓を次の世代へと伝える語り部の育成が必要」と指摘。防災教育の充実を図り、伝承活動に関心をもち若者が増えることを望んだ。その上で、「行政は伝承活動を継続できる環境を整えてほしい」と訴えた。

長田忠広事務局長(岩沼市)は「大川小の教訓を踏まえ、学校防災の見直しや伝承活動への公的支援などの充実を市や県、国に働き掛けていきたい」と語った。

党宮城県本部 石巻市

佐藤さん(右端)の案内で被災校舎を見て回る人間の復興10年委のメンバー

石巻市旧大川小学校視察(公明新聞に記載)

佐々木まゆみプロフィール

昭和39年7月仙台市生まれ。  
平成23年仙台市議会議員初当選(宮城野区選挙区)。現在3期目。  
【仙台市議会】  
総務財政委員会、歴史まちづくり調査特別委員会。



f 日々の活動はフェイスブックを御覧ください。 Facebook